

ふくい県域タイムラインについて

ふくい県域タイムライン策定部会 事務局

これまでの経過

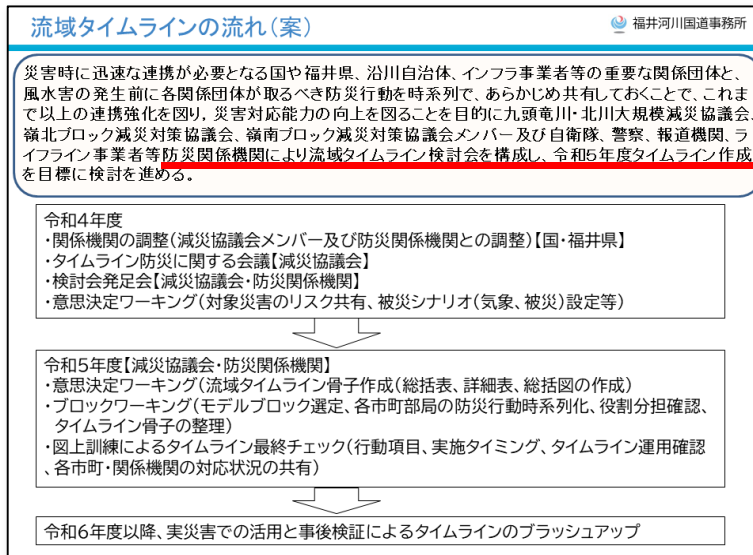
○令和4年度の減災協議会では、令和5年度にタイムライン作成を目標に検討するとご説明しましたが、「令和4年8月大雨のふりかえり会議」にて、市町の支援・情報提供の充実を図ると福井県が発表。

令和4年度（2022年度）

6月6日

**大規模氾濫
減災協議会**

資料1-2抜粋



防災関係機関により
流域タイムライン検討会を
構成し、令和5年度タイムライン
作成を目標に検討

11月14日

ふりかえり会議

資料6抜粋

住民の防災行動につながる市町への支援・情報提供の充実（福井県） 資料6

今回の様な急な大雨に際しても、「住民の避難行動を行政が全力で支援する」という考えのもと、早期の避難情報の発令や、住民に対して災害リスクが高まっていることを様々な伝達手段を活用して分かりやすく伝えることが必要である。

県から市町への支援

○避難情報の的確な発令

- ＜避難情報発令マニュアル作成や見直し＞
 - ・避難情報発令の判断基準の策定を支援（河川水位、河川洪水危険度、土砂災害危険度に応じた指標）
 - ・避難行動を促す伝達文例の策定を支援
- ＜避難判断に必要な防災情報の充実＞
 - ・県河川・砂防総合情報システム改善（土砂災害危険度の精度向上、操作性改善）
 - ・中小河川の水位計・河川監視カメラの整備
- ＜避難情報の確実な伝達＞
 - ・市町から避難情報を県防災ネットに入力することで、様々な伝達手段に一斉配信できるよう防災ネットを改修

○市町の判断支援タイムラインの作成

国、気象台と連携して、災害時の避難情報発令を的確に行うため、浸水・土砂災害に対応したタイムラインの作成を支援

○研修・訓練の充実

避難情報発令に関する研修（市町担当課長向け研修）、避難情報発令の訓練実施を支援

1



○市町の判断支援タイムラインの作成
国、気象台と連携して、(略)
浸水・土砂災害に対応したタイムラインの作成を支援

これまでの経過と今後のスケジュール

- これまでに勉強会、タイムライン策定部会を経て、令和5年6月よりふくい県域タイムラインの試行運用を開始します。
- 今後、試行運用、勉強会を重ね、令和8年度の本運用を目指します。

令和4年度（2022年度）

3月29日

タイムライン勉強会

- ・タイムラインに関する認識共有
- ・タイムラインのイメージ共有
- ・今後の流れ（作業内容）の共有

令和5年度（2023年度）

5月11日

タイムライン策定部会 第1回

- ・防災に関する現状・情報の共有
- ・意思決定の確認・検討
- ・web危機感共有会議の進め方の検討

タイムライン策定部会 第2回（書面開催）

- ・ふくい県域タイムライン【意思決定】（案）の検討

6月9日

ふくい県域タイムライン スタートアップ式典

- ・ふくい県域タイムライン【意思決定】の試行開始

出水期（6月16日～10月15日）

ふくい県域タイムライン【意思決定】の試行運用

- ・web危機感共有会議の実施
- ・勉強会の実施（月に1回程度）

非出水期（10月16日～）

タイムライン策定部会 勉強会ほか

- ・出水期対応のふりかえり（AAR）
- ・ふくい県域TL、市町TLの策定
- ・図上演習

等

令和8年度（2026年度）

出水期～

ふくい県域タイムラインの本運用 （毎回のふりかえり、改善）



ふくい県域タイムライン
令和5年6月9日試行版



ふくい県域タイムラインについて

◆目的

令和4年8月大雨の振り返り（AAR）の改善策として、災害時に関係機関が危機感を共有する体制を構築し、災害に対する危機感共有、早期の準備や避難指示等の迅速な意思決定につなげるため、令和5年度出水期から「ふくい県域タイムライン」の試行運用を開始する。



定義

福井県全域を対象に、国、県、市町等関係機関が、水害・土砂災害が発生することを前提として、「いつ」「誰が」「何をするか」等の事前に取り組むべき行動を時系列で整理した行動計画

◆効果：県域全体の防災力向上



効果0 適時・的確な意思決定と防災対応

関係機関と全市町が今後の気象の見通しや対応状況を共有し、状況に応じた体制を取ることで、適時・的確な避難情報発令等の意思決定を可能に



効果0 早い段階での危機感共有

メーリングリストやWEB会議を活用し、災害の可能性がある早い段階で危機感共有、早めの防災対応が可能に



効果0 連携の強化

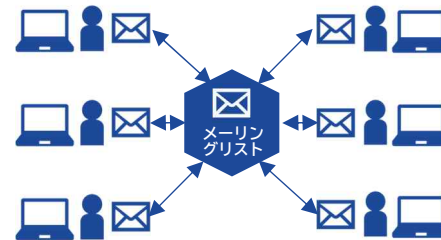
タイムラインの策定や運用を通じ「顔の見える関係」を構築し、避難情報発令基準等の足並みをそろえ、対応の遅れをゼロに！



◆運用支援ツール

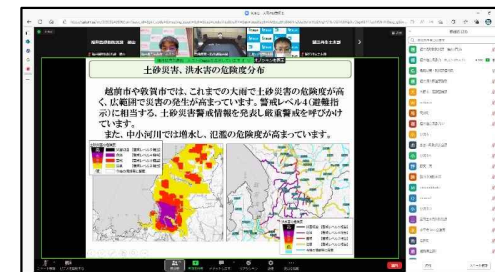
1 メーリングリスト

→情報共有の一元化・迅速化を図るため、平常時に連絡先を共有



2 WEB会議

→住民にわかりやすく災害情報を伝達するため、報道機関も含めた関係機関で危機感を共有



3 情報共有プラットフォーム

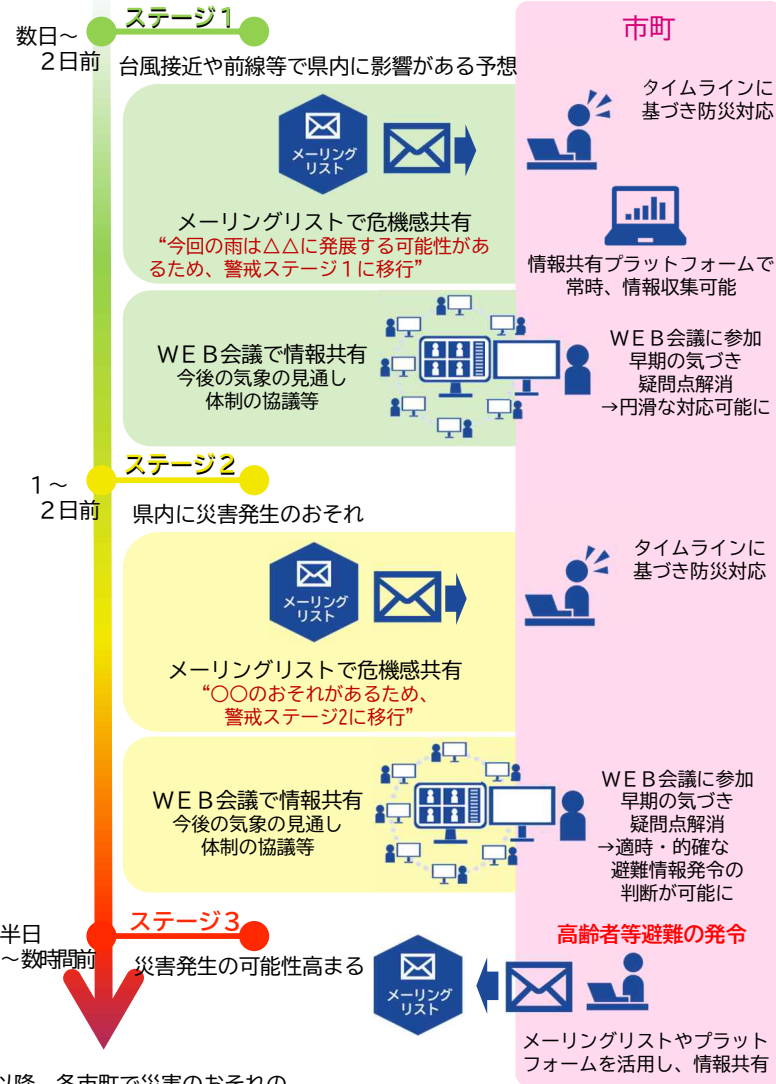
→状況把握を迅速化するために気象情報や水位、河川カメラの情報を集約



ふくい県域タイムライン運用イメージ

- ・タイムラインに基づく早めの防災対応で県民の**安全安心**を守る
- ・市町毎に、河川規模に応じた洪水や土砂災害に対する避難情報発令の判断基準を設定

◆ステージ1～3 およその時間と状況



警戒ステージ	行動目標	行動目標の内容	主な防災行動	主なステージ移行判断基準		
				洪水災害		土砂災害
		洪水予報河川・水位周知河川	その他中小河川			
0	備え	出水期の水害対応に備え、日頃から防災やTLの理解促進、TL運用訓練の実施、TL防災の醸成、ハザード情報の充実等を図るステージ	防災やTLの勉強会・訓練の実施 TLのふりかえり・改善	-		
1	準備	気象予測を基に通常モードから災害モードに切り替え、災害対応に必要な事前の調整や確認を行うステージ	web危機感共有会議の開催 人員の調整・確保 資機材の点検・準備	■台風の接近や前線の停滞に伴い、福井県域へ影響があると予測された場合 ■福井県域において、早期注意情報（警報級の可能性）を参考に判断		
2	警戒	厳しくなる状況に対し、迅速に災害対応ができるよう体制強化・状況確認を行うステージ	web危機感共有会議の開催 連絡体制の確認 職員参集等の体制確認 避難所開設の準備	■気象台が台風・大雨の説明会を開催する場合 ■府県気象情報で大雨が見込まれた場合 ※これまでの降雨状況を踏まえ総合的に判断		
3	早期避難	災害発生の可能性が高まる状況に対し、事前の避難準備を必要とする行動等について早期対応を行うステージ	web危機感共有会議の開催 高齢者等避難の発令 避難所の開設 避難行動要支援者への支援	■避難判断水位到達/到達見込み ■洪水キキクル赤 ※他の市町の水位観測所も参考に判断	■氾濫注意水位到達/到達見込み ■洪水キキクル黄	■大雨警報（土砂災害） ■土砂キキクル赤
4	避難	災害発生が見込まれる状況に対し、災害リスクの高い地区にいる人々の避難を完了させるステージ	web危機感共有会議の開催 災害対策本部等の設置 避難指示の発令 住民等の避難誘導 県から市町へのリエゾンの派遣	■氾濫危険水位到達/到達見込み ■洪水キキクル紫 ※他の市町の水位観測所も参考に判断	■避難判断水位到達/到達見込み ■洪水キキクル赤	■土砂災害警戒情報 ■土砂キキクル紫
5	緊急避難	切迫した状況に対し、逃げ遅れた人や現場対応者の命を守るための緊急的な対応を行うステージ	緊急安全確保の発令 避難が完了していない住民への垂直避難呼びかけ	■氾濫発生情報 ■大雨特別警報（浸水害） ■洪水キキクル黒	■大雨特別警報（土砂災害） ■土砂キキクル黒	
6	応急復旧	災害発生後の応急・復旧の対応を行うステージ	被災状況の確認 自衛隊やTEC-FORCEの派遣	-		

※TL：タイムライン

※洪水予報河川については、警戒ステージ3～5で発表される指定河川洪水予報も基に避難情報発令を判断

以降、各市町で災害のおそれの高まりに伴い各自ステージ移行

タイムライン運用で得られた課題・教訓をもとに**内容の見直し・改善を行い、防災力を向上**